「子どもがニートになったなら」

玄田有史　小杉礼子　「生活人新書」ＮＨＫ出版　680 円

2005 年 7 月 10 日発行ですから、新しい本です。著者はご存知の玄田、小杉のコンビです

「ニートの定義」

小杉氏が従来のＮＥＥＴとは別に日本型ニートを次のように定義しています

「社会活動に参加していないため、将来の社会的なコストになる可能性があり、現在の就業支援策では十分活性化できていない若者」

「構成の紹介」

「はじめに」と第一章「子どもがニートになったなら」を玄田氏が、「おわりに」と第二章「だれがニートなのか」を小杉氏が書いています

そして最後の第五章で「もっと大人のお節介を」という題でお二人が対談されています

第三章は「対談　家族よ、社会よ！」という題で下記の組み合わせでの対談が掲載されています

- 宮本みち子×小杉礼子（　過干渉、過保護だけど、開放性は希薄　）
- 江川紹子×玄田有史（　若者の「夢」と「やりたいこと」　）
- 小島貴子×小杉礼子（　感じさせ、考えさせて、行動する　）
- 長須正明×玄田有史（　「風邪薬を飲めば治る」みたいな解決策はない　）
- 斎藤環×小杉礼子（　ニート、キーワード化の功罪　）

第四章は「インタビュー　　支援の現場から」という題で 5 団体の実務責任者の方々へのインタビュー記事が掲載されています（　①　ＮＰＯ法人「育て上げ」ネット　②　Ａワーク創造館　③　PEACEFUL　HOUSE　はぐれ雲　④　浄土宗菩提山西居院　⑤　富山県教育委員会学校教育課　）

「所感」

○　玄田、小杉両氏が今まで述べてきた内容にプラスして、ニートに関する本質的問題と社会的背景の深さと広さについて、分かりやすく述べています

○　また 5 組の対談により、それぞれの視点からのニート問題のより具体的な把握や、それらに対する各人の現場発信の意見が述べられていて非常に身近に感ずることができました

「主観的視点よりあえて紹介したい点」（いつものとおり本の転記という手法をとります）

○　テキスト的なアプローチの仕方と親の役割、（特に父親）の 2 点です

（1）「風邪薬を飲めば・・・」での対談より（142Ｐ）

玄田：ニーとの問題を語ると、必ず解決策を求められるけれど、問題の中身を知れば知るほど、単純な解決策なんてないんだと思う

長須：雇用の構造が、バブル崩壊以降まるっきり変わってしまった。ところが正社員で働くべきであるとか、安定を求めるとか、そこの部分は変わらない。実体は変わっているのに、そちらを目指していきというのは、明らかに現実離れしているわけです。さらにそれを助長しているのが、自分探しだとか、やりたいこと探し、自己実現といったものです。そんなこと考えたら、何をしていいかわからなくなって当然です。

自分は何をするのかと問いかける。その問いかけに答えがでればいいのですけれど、答えなんかないんじゃにですか。自分が用意しない限り絶対答えはない。あるいは用意したとしても、正解であるかどうかだれも言ってくれない。そういう中で若者を働かせよう、社会に出していこうするなら、若者を何とかするだけでは絶対にだめで、これが一つの動きだとすれば、それを受けとめる側のほうのこともやらなきゃいけない。

雇用をどのように拡大するか。場と機会をどのように作り出すか。これは黙っていたら出来ませんから、セットにして考えないとだめなのではないかと思います

（2）「過干渉、過保護だけど・・・・」（81Ｐ）

宮本：「親の人生は意味のあるものだ」と思うと答えた若者が 15%ぐらいしかいないわけです。国際比較をしてみればたちどころに分かると思うけれど、こんなに低い国ってめったにないと思います。

日本の子どもたち、若者は、親の人生というものを認めていないということになるんですよ。それから、「親の仕事を良く知っている」と答えたのも 20%台でした。

小杉：モデルが、もう親にはないということですね。その背後にあるのは、やはり親子間の健全なコミュニケーションがないということなのでしょうか。

宮本：いや、もっとうんと深い問題があるのだと思いますね。もちろんコミュニケーションもないのですが、学校を卒業して、終身雇用の世界に入り、会社第一でやるのが安泰だという基準が、完全に成り立たない時代の子どもたちが、親をみてどう思うかということもある。

（3）　「ニート、キーワード化・・・」（187Ｐ）

斎藤：父親に関しては仕事を休んだりしなくていいから、本人と接するときだけ気をつけてほしい。特に本人を侮辱するようなことを言うのはまずい。一般的に、一番本人のプライドを傷つけているのはそれこそ父親ですから。ニートもそうだと思うのですが、父親の存在自体が辛いわけです。父親は黙っていても自分を非難しているように感じている人はすごく沢山います。だから、父親の態度としては、もっと父親のほうから口をきいてほしいし、話しかけてほしいし、でも、本人を傷つけないでほしい。

そういう、従来の父親像からいうとかなり難しいことを要求するほかなくなってくるんですね。※以上 2 点に関しては同じような論調で多くが語られています。ゴシックにした部分は私の主観的な思い込みを強調するために長山が行った行為です。